

2009年6月3日

## エジプト中央銀行総裁が銀行改革計画の第二段階開始を発表

エジプト中央銀行（CBE）のファルーク・エル・オクダ総裁は2009年5月27日の記者会見で、CBEとクウェート投資庁がアラブ・アフリカン・インターナショナル・バンク（AAIB）の持分の60%を売り出すと発表した。CBEはユナイテッド・バンクの持分についても大部分を売り出す。これらの売り出しは2011年末までに株式市場における公募（IPO）で実施される見通しである。

さらに総裁は、銀行改革計画の第一段階が最終局面にあり、目標の95%を達成したと述べた。

銀行セクターの現状については次のような説明が行われた。

- 銀行セクターの業績は依然として堅調であり、諸外国の銀行と異なり、収益性は良好である。エジプトの銀行は、一行を例外として全行が09年第1四半期に利益を上げた。
- エジプトの銀行の70%以上で、09年第1四半期の純利益は前年同期比で増加した。一部の銀行の増益率は50%を上回った。
- エジプトには銀行が現在39行あり、その払込資本金は前回の業界再編時のLE 300億未満からLE 700億以上に増えた。これらの銀行はLE 1,000億の未引当不良債権を持っていたが、現在、すべての不良債権が引当済みである。
- 民間銀行セクターの引当不足の問題は、3行を合併してユナイテッド・バンクの名称で統合し、別の3行を国営銀行に吸収合併することで解決した。これらの銀行は、LE 50億の引当不足であったために、LE 150億の預金残高がありながら破綻目前となった。
- すべての国営銀行で経営・財務再編による改革の第一段階が始まり、07-08年度に実際の業績を示す「本来の」財務諸表が発表された。
- 04年度にLE 800-1,000億に上る不良債権の90%が清算され、現在までにLE 520億が回収済みであり、向こう3年間に残りのLE 380億が回収される予定である。

銀行改革計画の第二段階の主な注目点は下記の通りである。

- 第二段階の目標には、低インフレ水準を維持し、金融政策基盤の強化し、来年初めに発表されるインフレ報告書に備えインフレ測定と予想の先進的なモデル



を中央統計局（CAPMAS）と協力して作成し、外貨準備の運用を改善し、2009 年末の CAIBOR 発足ために銀行間市場を強化し、流動性管理手段と国債取引を改善することなどがある。

- 銀行セクターの効率性とリスク評価能力を向上させ、カイロ銀行を国営銀行として残し、CBE の情報処理能力を改善し、改革実行のため 2010 年末までにエジプト中央銀行法と銀行法を修正する。
- インダストリアル・デベロップメント・バンク、アグリカルチュラル・デベロップメント・バンク、エジプシャン・アラブ・ランド・バンクを含む国営銀行の再編計画を開始する。注目は、CBE がエジプシャン・アラブ・ランド・バンクとインダストリアル・デベロップメント・バンクにそれぞれ LE 40 億、LE 10 億の支援融資を行なっていることである。
- 政府の費用を削減し、効率性を高めるために、電子支払手段を強化する。600 万人の国家公務員と 1,000 万人の年金受給者が新システムを使用する。税金と関税の納付もこのシステムを使って行なわれる。また ATM を現在の 2,000 台から 10,000 台に増設する計画である。

**主な経済、金融動向は下記の通りである。**

- エジプトの外貨準備高は 350 億米ドルから 320 億米ドルへと 7.8%程度の減少にとどまった。ロシア、ポーランド、マレーシアの外貨準備高がそれぞれ 40%、27%、32%と 2 桁台の減少となった中で、エジプトの減少幅は新興国で最小である。
- エジプト・ポンドの下落率は 4.9%安と世界最小である。ポーランド、ロシア、ブラジルの通貨はそれぞれ 50%、40%、37%下落している。
- 外国為替の銀行間市場が、約 90 億米ドルの外国投資の引き揚げに問題なく対応できた。この市場は非常に活発化しており、設立来の出来高は 2,000 億米ドルに達している。
- 08-09 年度の最初の 9 ヶ月間に、対内直接投資は前年同期の 113 億米ドルから 52 億米ドルへ 53%減少した。有価証券投資は 89 億米ドル減少したが、その 90%は短期証券投資で、現在の残高は 7 億米ドルである。
- インフレ率は 2009 年 6 月までに 10%まで低下し、その結果、実質金利は年末までにプラスに転じると予想される。